



余分を  
切り捨ててはいけない  
55の理由

5月15日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 5月15日のおはなし「余分を切り捨ててはいけない55の理由」

---

- 1 なんとなく。
- 2 もったいないから。
- 3 餃子の羽根はつけてほしいじゃない。
- 4 鯛焼きもバリの部分がうまいよねえ！
- 5 あなたには余分に見えてもわたしには大切なの！
- 6 思い出があるから。
- 7 好きになれるかもしれないから。
- 8 いずれ役に立つ日がくると思うし。
- 9 用がなくなったら捨てるつもりだけど、まだ用がある。
- 10 誰が余分だと決めた？
- 11 理由などない。
- 12 エコ精神。
- 13 工夫次第で余分ではなくなる。
- 14 愛着があるから。みんな可愛いわたしの相棒なんです。
- 15 いまに見ている。（無回答）
- 16 うるさい。うるさいうるさいうるさい。（無回答？）
- 17 じゃあ逆に聞くがあんたのその化粧は切り捨てられんのかよ。
- 18 残酷だから。
- 19 これはテレビに出るんですか？（無回答）
- 20 余分じゃない。養分なんです。わからないかなあ。
- 21 何やとコラ。誰が社会のダニやて？（無回答）
- 22 そこには234の理由があるんですが、時間がかかるのでぼくと一緒にちょっとその休憩できる建物に入って二人だけでじっくり話しませんか？（無回答）
- 23 すみませんすみません。全部わたしが悪いんです。（？）
- 24 あれかよ。テレビは余分じゃねえってのか？ おめえらみんな余分の塊じゃねえか。（無回答）
- 25 そこに余分があるから。（無回答？）
- 26 余分の余分による余分のための余分を守りたいから。
- 27 あなたの余分はわたしの必要なのかもしれないって考えたことはあって？
- 28 いやいや。あなたはそうおっしゃいますがね、これがちゃーんと付き合えばいい味出して来るんです。余分だなんてとんでもない。ご覧なさい。この色つや。光をこう当てるとね、また違った輝きが出て来る。それにほら、手に取ってみてください。わかります？ さっきより……（以下略）
- 29 いま捨てます。捨てますから。あなたがいなくなったら捨てますから。
- 30 おれには全部わかるようになってんだよ。勝手にいじんなよボケ！

- 31 そこなんです。いいところに気がつきましたね。理由はある。必ずある。しかしそれは言語化することが甚だ難しい。わかりますか？（無回答）
- 32 文化だよ文化。
- 33 わかるやつにはわかる。わからないなら縁がないと思え。
- 34 聞きたい？ 聞きたかったら、教えてあげなくもないんだけどね、先におじさんといいことしよう。そうしたら教えて上げる。（無回答）
- 35 え？ 余分？ おれが？ くわー！ 来るね来るね。もっと言って。余分？ 言葉責め、たまらんです。女王様と呼んでもいい？ いいですか。女王様。（無回答）
- 36 ちょっと待ってメイクするから。（メイクの途中で他の作業を次々に思いつき15分後にはインタビュアーの存在を忘れてPSPで遊び始める。無回答）
- 37 帰って！ わたしのことはもう放っておいて！（無回答）
- 38 しびれるねえ。お姉さん、しびれるねえ。しびれるからだよ。しびれるから切り捨てられないんだよ。（?）
- 39 おめえのでけえケツと一緒にだよ。切り捨てられんのかよ。
- 40 ちがうんです。全体でひとつなの。全部含めて完全なの。何も余分なものなどないの。
- 41 マスゴミが！（無回答）
- 42 いまやってます。すぐできます。え？ 理由なんてないです。だからやってますって、余分の切り捨て。
- 43 そうかい。そんなに切り捨てたいならまずあんたらから切り捨ててやるよ。待ってろ、いま妖刀村雨丸を持って来るから。（無回答 ※実際に日本刀を奥から持ってきたため取材中断）
- 44 詩だよ。え？ 死じゃなくて。何だよ死って。ひどいね。詩だよ詩。ポエム。わからない？ ダメだなあ。詩心のない人は。言うにこと欠いて死だなんて。
- 45 間に合ってます。（無回答）
- 46 ああ。そこに置いといてくれる？（無回答）
- 47 （無回答。一言も発せず）
- 48 切り捨てようとするよね、世界を切り捨てなきゃいけないんだよ。
- 49 それぞれ。いまちょうどそれを考えてたんだ。キミ気が合うね。あっ。カメラおれが回すからさ、キミだけ、お姉さんだけ部屋に入ってさ。ね？ カメラの人、余分～！ ね、キミ一緒に語り合おうよ。（無回答）
- 50 もうやめてください。わたしの悪口を言うのはやめてください。（無回答）
- 51 나에게는 불필요한 것들 하나도 없다（「不必要なものなど一つもない」の意か）
- 52 やなこというねあんた。喧嘩売ってんのかい？ どうせあたしゃつまはじき者ですよ。でも生きてる権利はあるんじゃないですかい？（無回答?）
- 53 また来たのかい？ うるさいね。さっき表で会ったろ。余分はあんたらだよ。
- 54 へへ。余分？ 余分を、はあ、切り捨てられない。ええ、理由を。よく聞いてくださいました。さすがだ。そこですよ。へへ。こんちまたどうもご機嫌さんで。しかし大したもんですね。いやいやお若いのに見上げたもんですよ。大変でげしょう？ あれでしょ？ 町で100人に聞き

ましたって感じで、え？ 100人も聞かない？ あそう。それでもかれこれ90人くらいは。え？ そんなにいかない？ 50人くらい？ それでも大したもんですよ。朝から駆けずり回って。え？ 午後になってから出てきた？ あそう。午後から出えの、午後出で50人。こりゃすごい。スピードインタビュー新記録ですな。世界記録更新ですな。え？ あ？ あたしが答えるの？ いえいえあたしなんかもう存在そのものがみなさんの、何てんですか、家来。家来衆みたいなもんです。あなたが主であたしが従。主から見たらあたしなんざ余分、余分な子分。ね？ ♪「子分、親分、いい身分」なんてね、コマーシャルでもやってますでしょ？ え？ それはセブンイレブン？ お。いいね。いいですね。お姉さん、ツッコミの筋がいい。実はお笑いでもやっていけるんじゃ？ くー！ そういう腕のいいお若い方が出てらっしゃると拙なんかもうどんどん出番がなくなりますな。それこそ余分。社会の余分。余分恐れ入りますが、なんてね。あ、これ「夜分」と掛けてるんすがね。（以下略）

55 切り捨ててしまうと余分が余分でなくなってしまうから。

以上、部屋を片付けられない悩みを持つ55の方に余分を切り捨ててはいけない理由についてインタビューしました。

（「余分を切り捨ててはいけない55の理由」ordered by atohchie-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

## 新作スタート。お題募集中。

---

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。  
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。  
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。  
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、  
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は  
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」  
をご活用ください。

## 余分を切り捨ててはいけない55の理由

<http://p.booklog.jp/book/35934>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35934>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35934>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.